

どうして CT 検査をするの？ ～CT 検査の重要性

病院で放射線を用いた検査の代表はレントゲン撮影とCT検査です。ではなぜレントゲン撮影だけではなく、CT検査も行うのかをCTの特徴から説明いたします。

CT (Computed Tomography) 検査とは、物体を透過した X 線の量のデータをコンピュータで処理し、物体の断面画像を得る検査です。体内の様々な病気を発見することができ、特に優れているのは、心臓、大動脈、気管支・肺などの胸部領域、肝臓、腎臓などの腹部領域の病変の検出です。



現在多くの病院装置はマルチスライス CT と呼ばれ、短時間で広範囲を撮影することができるものです。

CT 検査は造影剤の使用の有無により「単純検査」と「造影検査」の二つに分けられます。造影剤を使用しない「単純検査」でも、一度の撮影で任意の断面での観察や骨の 3D 画像を得ることができます。造影剤を使用する「造影検査」では、更に、血管の 3D 画像や各臓器への血流の流れまで調べることができ、より多くの情報を得ることができます。

造影剤を通常腕の静脈より投与し、血管を介して全身の臓器へと浸透させることで、病気や各臓器の血流状態や血管の情報を得ることができ、診断の精度が上がるのです。

一回の検査時間は内容次第で異なりますが、単純検査で 5～10 分、造影検査で 5～20 分程度です。

医療行為には必ずメリット・デメリットがあります。

CT 検査では上記のように、他の放射線検査では得られない詳細な画像を得られます。反面、健康被害をもたらすほどではありませんが、他の放射線検査に比べると被ばく線量は高くなります。

そのため、私たち医療従事者が常に心がけているのは、医師は診療上その検査が必要かどうかの判断であり、診療放射線技師は、より低い線量で、より質の高い画像の提供です。

私たち放射線技師は、正確な画像診断のため、日々努め勤しんでおります。不安なことやわからないことがありましたら、遠慮なくご相談ください。